

熟議プラットフォームにおけるモデレータの自動化
スタンフォード大学クラウドソース民主主義チームと
同大熟議民主主義センターによる共同研究

インターネットが商業、広告、社会的交流、教育など多くの分野で革命的な変化をもたらしているものの、その一方で多くの人々がインターネットを通じて議論して社会的利益をもたらすという段階にはいまだ至っていません。逆に、誰もが参加できるチャットグループやメッセージボードにおいては、具体的な問題を議論する際に相手を罵ったり、非生産的な会話が繰り返されているのが現状です。この問題を解決することが困難な理由として、洗練された社会選択理論やゲーム理論、アルゴリズムが必要であるのと同時に、革新的なインターフェイスの開発や細心の注意を払い綿密に社会科学を実践することが必要とされることが考えられます。

スタンフォード大学熟議民主主義センターと同大学クラウドソース民主主義チームによる共同研究は、社会科学と工学の専門家が協力して、自動化されたモデレータを備えた熟議プラットフォームを開発しました。このプラットフォームは、約 30 か国以上、100 を超えるプロジェクトで利用されてきた討論型世論調査（Deliberative Polling）を基に設計されています。このプラットフォームでは、科学的方法による無作為抽出と、小グループによる議論を組み合わせることで、参加者に対し現実的な政策課題についていつでも議論に専念できる場を提供します。

もし私たちが議論や熟議のプロセスを大規模で行いたいとしても、問題はモデレータをリクルートしトレーニングすることです。仮に小グループによる議論にモデレータが不在だったとしたら、グループ内で意見の似た者だけと話し合い、議論は全体としてばらばらなものになってしまうか、あるいは少数者が発言を独占してしまったり、テーマとは全く関係のない議論に終始してしまう可能性があります。そこで私たちは、オンラインのビデオ会議システムにおいて、モデレータの機械化に取り組みました。このモデレータの機械化の一部には機械学習と自然言語処理の技術が採用され、グループ参加者は指示に従って、自律的に発言や行動を抑制し、グループとしての意思決定を行うよう綿密にデザインされています。現在、このプラットフォームは米国とアジアで試験運用されています。このプラットフォームはどの言語にも対応でき、パソコンや携帯電話で利用できます。

チーム

James Fishkin 熟議民主主義センター所属、熟議民主主義専門家

Ashish Goel, Kamesh Munagala アルゴリズム、社会選択理論専門家